



カツオの刺身、カツオ丼など



一本売りは早朝から長蛇の列

◆**イベントの目玉はカツオ**  
 2～8キロまでのカツオが約2,000本(計4トン)用意され、新鮮なカツオを求めてたくさんの方が来場しました。一本売りのほか、刺身やタタキ、握り寿司、カツオ丼など、さまざまな料理で販売されました。  
 友人と宇和島市から訪れた木下弦也(げんや)さんは、「二本売りを目当てに来た。カツオ丼が鮮度抜群で美味しかった」と話しました。



開会あいさつをする立花会長

愛南町の特産品を代表するカツオや愛南ゴールドなど、初夏の味覚を味わってもらおうと、「ぎゅぎゅつと愛南!夏の陣」(愛南食のイベント実行委員会主催)が開催されました。これまで「愛南びやびや祭り」の名前で行われていたイベントをリニューアルし、会場も愛南漁協御荘支所周辺(長崎町有地内)に移しました。  
 実行委員会の立花弘樹(ひろき)会長は、「どこよりも鮮度の良いカツオを味わうことができるイベント。たくさんの方に食べてもらいたい」とPRしました。

### ◆ジュースで味わう愛南ゴールド

愛南グリーン・ツーリズム推進協議会では、来場者が自ら愛南ゴールドを搾って飲む「愛南ゴールド生搾り体験」を毎年実施しており、恒例となったこの体験に多くの方が参加しました。

今治市から訪れた豊嶋初恵(はつえ)さんは、「これまで愛南ゴールドを食べたことがなかったが、飲んでみてさっぱりした味でとても美味しかった。早速買って帰りたい」と、すっかり愛南ゴールドのファンになった様子でした。



カットしたみかんをジューサーで搾る



写真左から山岡さん、岩見さん、羽田さん

◆**愛南町の特産品が勢ぞろい**  
 ヒオウギ貝、養殖クロマグロ、盛漁期を迎えているイサキなどの水産物や、ブロッコリー、甘夏などの農産物、じゃこ天などの地場産品が販売されました。

### ◆南宇和高校農業クラブの皆さん



クロマグロの刺身、握り寿司など



ヒオウギ貝の浜焼き

### ◆愛南愛あい大使が交代

愛南町の観光や特産品をPRする「愛南愛あい大使」の交代式も行われました。新たに大使に就任した岩見まゆ(まゆ)さんは、「町外の人に愛南町のことを知ってもらえるよう、特産品や観光地をPRしたい」と抱負を述べ、2年間の任期を終えた羽田なつき(なつき)さんと山岡由菜(ゆな)さんは、「役目を終えて寂しい気持ちですが、次の方に頑張ってもらいたい」とエールを送りました。

# ぎゅぎゅつと



イベント前日に水揚げする中須賀さん

細かな配慮がなされています。

鮮度を保持してイベントへ

このイベントはカツオがなると成り立たない。カツオが用意できて嬉しい」と話し、イベント前日に安どの表情を見せました。

保することが難しくなっています。

## ◆ぎゅぎゅつと愛南! 舞台裏

◆イベントの成功は当日の天候とカツオの水揚げにかかっています。近年、日本の近海で獲れるカツオの水揚げ量が減少し、愛南漁協でも十分な量のカツオを確保することが難しくなっています。

## ◆ブースも楽しい

自衛隊ブースには制服を着用して記念撮影ができるコーナーが設けられ、愛媛大学ブースには魚に触れるタッチプールが用意されるなど、家族連れや子どもでも賑わいました。

宇和島市から家族3人で訪れた清家敦<sup>つとむ</sup>さんは、「自衛隊の制服や車がかっこいいですね」と感想を話しました。



タッチプールも大人気



ジープの前で記念撮影

## ◆名物はわら焼きのタタキ



わら焼きをする愛南漁協の石上浩之<sup>ひろゆき</sup>さん

深浦漁港はカツオ漁場までの距離が近く、漁船は釣り上げたカツオを短時間で水揚げできます。新鮮なカツオを豪快にわらで焼き上げるタタキはイベントの風物詩となっており、一度食べるとやみつきになること間違いなしです。



篠山市のキャラクター「まるいの」



篠山市から出店した皆さん

## ◆姉妹都市・丹波篠山からも出店

昨年8月に愛南町と姉妹都市提携を結んだ兵庫県篠山市からも出店があり、特産品である黒豆のパンやお菓子、イノシシのフランクなどを販売しました。

3回連続でイベントに参加した河南克典<sup>かつのり</sup>篠山市議会議員は、「地元黒豆をPRすることができて、篠山市としても良いPRになっている。防災協定を機に愛南町と交流が始まったが、両市町が連携することでさらなる地域活性化につながれば」と話しました。

## ◆ステージイベントも盛りだくさん

本イベント初登場となった「海鮮プロレス」や、愛媛大学の学生による「ぎよしょくビンゴ」、ご当地キャラが勢ぞろいするショーなども行われ、来場者を楽しませました。



迫力のある海鮮プロレス